

生命の歌声が聞こえる水と緑の薫る川

第 6 期野川流域連絡会 水環境分科会活動記録

野川の通信簿
世田谷ダムを野川ダムに広げるプロジェクト
野川の水源の調査について

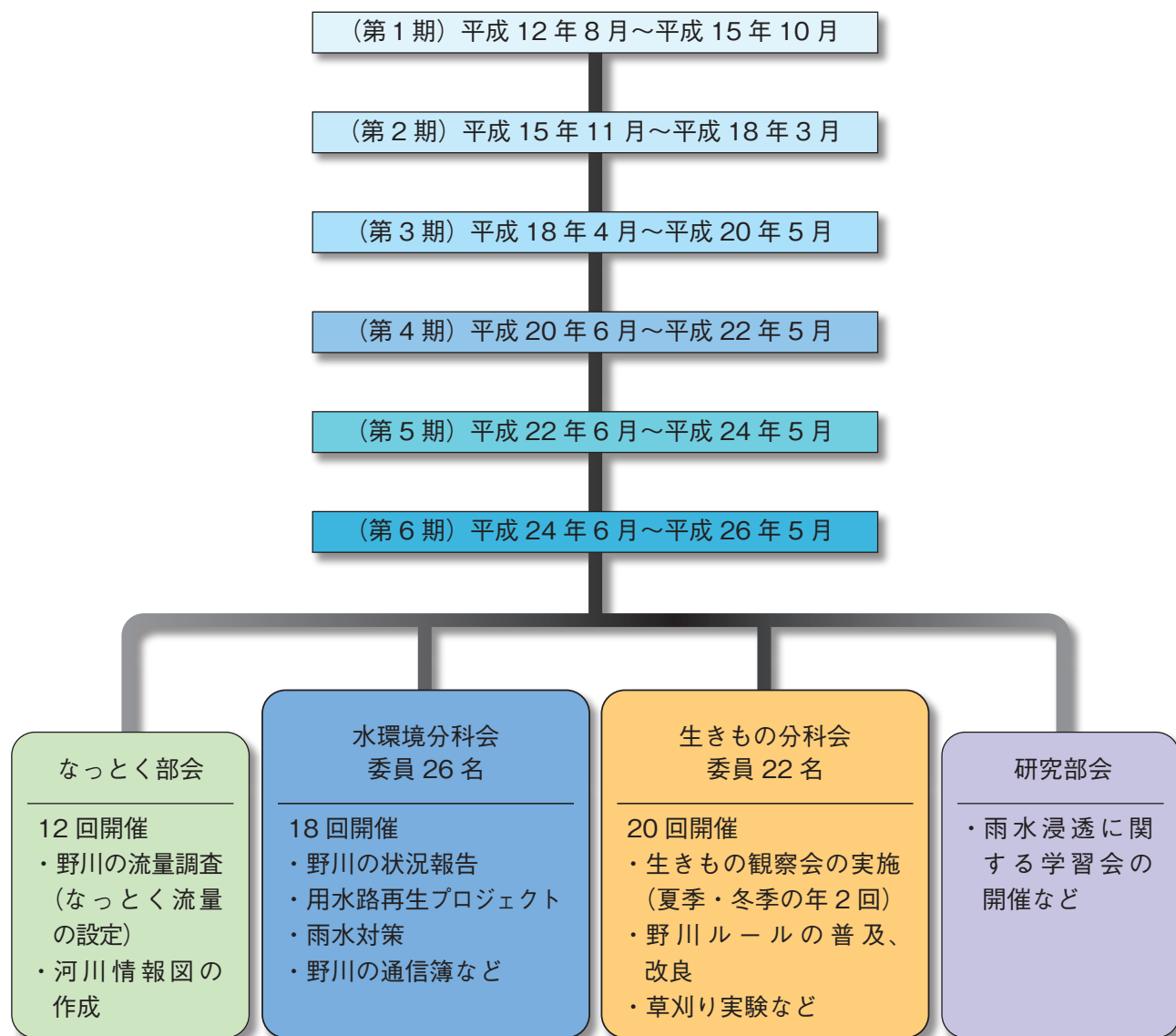


平成 26 年 7 月
野川流域連絡会

野川流域連絡会について

「野川流域連絡会」は、野川が“生命の歌声が聞こえる水と緑の薫る川”となることをめざして、流域住民、野川に関心を持って活動している団体の代表者、都及び流域自治体の職員等が、情報や意見の交換、提案等を行うことを目的に、平成 12 年 8 月に設置されています。

平成 24 年 6 月から第 6 期目がスタートし、現在、都民委員 18 名・団体代表委員 10 名、行政委員 20 名、計 48 名が、水環境分科会と生き物分科会を中心に活動しています。第 6 期は各分科会の活動報告などが行われる全体会が 3 回開催されました。



第 6 期第 1 回全体会のようす



第 6 期第 2 回全体会のようす



第 6 期第 3 回全体会のようす

水環境分科会について

水環境分科会は、第1期の流域連絡会のときに「野川の水量がなぜ少ないのか、どうすればそれを増やすことができるのか」をテーマに設立された水量分科会と「野川の水質を良くするにはどうすれば良いのか、特に降雨時の下水のオーバーフロー問題」が大きなテーマとなりなり設立された水質分科会が第3期の流域連絡会で2つの分科会が1つにまとめられ水環境分科会となったものです。

第6期の活動内容は、水質分科会の設立から継続して行われている「野川の通信簿」の継続と、野川の維持水量と治水対策に関わる市民貯留プロジェクト（世田谷ダムから野川ダムにひろげるプロジェクト）の展開、野川の水源への調査となっています。

水環境分科会は、13回開催され、「野川の通信簿」が2回、世田谷ダムから野川ダムにひろげるプロジェクトとして野川流域雨水セミナーが開催され、野川の水源の一つである日立中央研究所「大池」への視察と流量測定が行われました。



第6期第9回水環境分科会のようす

第6期水環境分科会の活動状況

開催年月日	活動名称	活動内容
平成24年9月6日	第1回水環境分科会	第6期活動方針について
平成24年10月22日	第2回水環境分科会	第6期活動方針、野川の水源に関する意見交換会について
平成24年11月5日	野川水源に関する意見交換会	日立中央研究所「大池」の状況について
平成24年12月5日	第3回水環境分科会	野川流域河川整備計画の見直しについて
平成25年3月6日	第4回水環境分科会	世田谷ダムの流域展開について
平成25年4月23日	第5回水環境分科会	世田谷ダムの流域展開、野川の水涸れについて
平成24年7月2日	野川の通信簿（第10回）	小金井南小6年生による水質、生物調査
平成25年6月13日	第6回水環境分科会	後期の活動方針について
平成25年7月1日	野川の通信簿（第11回）	小金井南小6年生による水質、生物調査
平成25年7月18日	日立中央研究所視察	野川の水源の調査、意見交換
平成25年7月24日	第7回水環境分科会	日立中央研究所「大池」の調査について
平成25年8月28日	第8回水環境分科会	「野川ダム」プロジェクト・セミナー実施について
平成25年9月26日	第9回水環境分科会	「野川流域雨水セミナー」の実施について
平成25年10月4日	野川流域雨水セミナー	講演、パネルディスカッションなど
平成25年10月31日	第10回水環境分科会	日立中央研究所「大池」の調査について
平成25年12月13日	第11回水環境分科会	日立中央研究所「大池」の調査状況について
平成26年1月23日	第12回水環境分科会	日立中央研究所「大池」の調査状況について
平成26年2月24日	第13回水環境分科会	第3回全体会の開催について

野川の通信簿

河川愛護月間行事の一つとして、野川流域連絡会が主催し、地元の小学校・市民団体・地元住民及び行政との連携・協働によって、小金井市内を流れる野川において、『野川のちびっこ先生あつまれ！～小学生による「野川の通信簿」』を実施しています。「野川の通信簿」は、今期で第10回と第11回を開催しました。

野川の通信簿のコンセプト

- ・地域住民の参加による住民自らの野川の管理。
- ・野川の水質について具体的で説得力のあるデータを集める。そのために統一された調査を定点で継続的に行う。
- ・水質だけでなく水量、生物の指標も加える。
- ・野川の通信簿は“しくみ”である。地域住民と自治体、学識者との連携で調査結果を公の場で発表し自治体の施策に活かしていく。



開会のあいさつ（第11回野川の通信簿）



水質観察（第11回野川の通信簿）



水生生物採取の道具（第11回野川の通信簿）



水生生物の採取（第11回野川の通信簿）



採取した水生生物（第11回野川の通信簿）



水生生物の観察（第11回野川の通信簿）



野鳥観察（第 11 回野川の通信簿）



植物採取（第 11 回野川の通信簿）



植物標本づくり（第 11 回野川の通信簿）



小学生代表のあいさつ（第 11 回野川の通信簿）

野川の通信簿の記録用紙

現地観察用		1 / 2
野川のつうしんぼ (ちびっ子先生版)		
南小学校 6年	組	名前
観察日時: 月 日 ()		
観察時間: 時 分 ~ 時 分		
観察場所:		
天 気: (きのうの天気:)		
気 温: °C		
野川の水温: °C		
さあ、川のいろいろなようすを観察してみよう!!		
1. 水のきれいさ (水質について)		
はじめに		
バックテストで調べてみよう!		
○どんな色になったかな? ()		
○シートと比べてみよう。きれいさの数値は、 ミリグラム/リットル (mg/L)		
① 水の色はどうか?		
ア. すきとっている イ. すこしにごっている ウ. にごっている		
エ. その他 ()		
② 水においはどうですか?		
ア. においはない イ. 少しくさい ウ. くさい		
エ. その他 ()		
③ 川の底のようすはどうですか?		
ア. 大きな石 イ. 小さな石 ウ. 土 エ. コンクリート		
オ. その他 ()		
④ 川の底のきれいさはどうですか?		
ア. きれい イ. きたない ウ. ぬるぬるしている		
エ. その他 ()		

2. 水の流れはどうか? (水量について)		2 / 2
① たくさんの水が流れていますか?		
ア. 水がない イ. 水たまりがある ウ. ちょろちょろ (細いすじのよう)		
エ. さらさらと オ. ゆったりと カ. とうとうと		
キ. その他 ()		
② ①の答えのように思うのはなぜですか?		
ア. 雨が降らないから イ. 雨が少し降ったから ウ. 雨がたくさん降ったから		
エ. 水がたくさんわいているから オ. 水がすこししかわいていないから		
カ. その他 ()		
3. 生きもののようすはどうか?		
① 水の中にいる生きもののようすはどうですか?		
ア. 観察できた魚		
()		
イ. そのほか観察できた水の中の生きもの		
()		
② 鳥のようすはどうですか?		
ア. 観察できた鳥		
()		
③ 植物 (草、花、木) のようすはどうですか?		
ア. 観察できた草		
()		
イ. 観察できた花		
()		
ウ. 観察できた木		
()		
④ そのほかの生きもの (虫など) のようすはどうですか?		
ア. 観察できた虫		
()		
イ. 観察できたそのほかの生きもの		
()		

野川流域雨水セミナー

「世田谷ダムを野川ダムに広げるプロジェクト」については、ゲリラ豪雨対策として世田谷ダムの取り組みが始まっており、この考え方を野川流域全体でも雨水の貯留浸透を展開していこうというものです。雨水の貯留浸透については、もう一つの側面として、地下水の涵養があげられ、それが野川の維持水量にもつながることも踏まえ、野川流域雨水セミナーを開催して、共通の認識を得ようとするものです。

「野川流域雨水セミナー」

みんなで雨を溜めよう！ ～「世田谷ダム」から「野川ダム」へ～

開催日時：平成 25 年 10 月 4 日（金）14 時 00 分～18 時 00 分

開催場所：世田谷区砧支所「成城ホール」

参加者数：80 名（事務局 6 名含む）

講 演

- ①東京都豪雨対策の取り組み：東京都建設局河川部計画課総合治水河川係長 柴崎英司
貯留浸透施設の整備による豪雨対策
- ②「世田谷ダム」の取り組み：世田谷区土木事業担当部土木計画課 池岸泰充
区民と協働で推進する貯留浸透施設の整備
- ③成城地区の取り組み：野川流域連絡会水環境分科会長 中川清史
行政との協働による整備の推進

特別講演

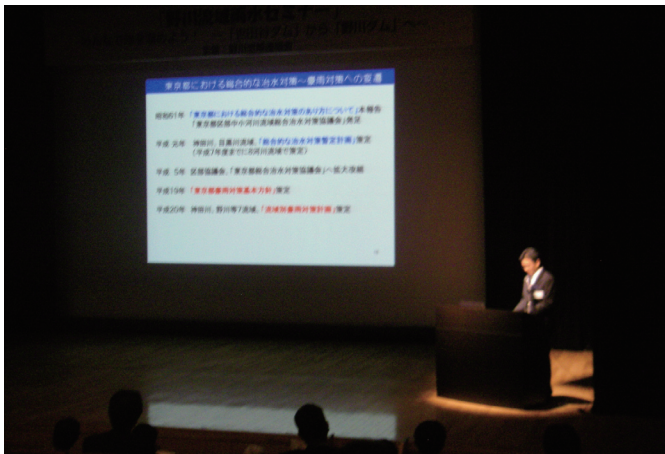
- ①事例紹介・福岡県樋井川での取り組み：NPO 法人南畑ダムを貯水する会 副理事長 角銅久美子
市民活動から広げる流域の貯留浸透対策
- ②雨水活用の考え方：公益社団法人雨水貯留浸透技術協会 技術第二部長 屋井裕幸
雨水活用の考え方、雨活（雨水の貯留・浸透・利用）技術の普及

パネルディスカッション

「野川ダム」への取り組み：コーディネーター：野川流域連絡会座長 神谷 博

パネリスト：世田谷区、狛江市、調布市、三鷹市、府中市、小金井市、国分寺市

各自治体の助成制度等のほかに①洪水被害の実態、②合流式下水道は、どの程度の降雨量で野川に越流するか、③東京都の豪雨対策を受けて、どのような対策を採っているかについて



東京都の豪雨対策の取り組みの発表



パネルディスカッションのようす

野川の水源への調査

野川の水源の一つである日立中央研究所の「大池」の調査については、はじめに日立中央研究所の会議室で、平成元年に実施された国分寺市の日立中央研究所の湧水に関する調査票を事務局が配布し、湧水の現状について日立中央研究所の方から説明を受け、現地を視察し、戻って会議室で話し合いを行いました。

検討の結果、水量については、試験的に大池の出口の所で計ることとし、水位については、大池の水路の上流側と下流側の2か所に自記水位計を設置して測定することとなりました。



大池の上流にある湧水源の一つ



大池



大池の水門



水路上流側の自記水位計



大池の出口から JR をくぐるトンネル



水量測定のようす

ホームページの紹介

野川流域連絡会では、ホームページでも活動の経緯の情報発信を行っています。

<http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/kasen/ryuiki/05/nogawa-title.htm>

東京都建設局では、都内の河川で開いている流域連絡会の活動をホームページで紹介しています。

<http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/kasen/ryuiki/index.html>

野川流域連絡会

生命の歌声が聞こえる水と緑の薫る川



【谷戸橋下流 狛江市】



【最上流部 国分寺市】

野川は、国分寺市東恋ヶ窪を源とし、武蔵野台地の端部、国分寺崖線に沿って東南の方向に流れ、小金井市、三鷹市、調布市を貫流し、狛江市東野川で入間川を、世田谷区鎌田で仙川を合流して、世田谷区玉川で多摩川に合流する、延長20.23km、流域面積69.6平方キロメートルの一級河川です。
水辺に近づきやすい川づくりを基本に、川沿いの武蔵野公園や野川公園と一体的に整備するなど、緑豊かな自然環境をつくりだしています。都市を流れる河川の中では、四季折々の自然が息づくうおいのある川として多くの人々に親しまれています。

「野川流域連絡会」は平成12年8月30日に設置され、現在第5期目として活動しています。委員（公募による都民委員と団体委員30名及び行政委員20名の併せて50名）が互いの情報を共有しながら、意見交換、提案、勉強会、自然観察会などを行っています。

暖かくなりました。東京の川へおでかけ下さい。[てくてくマップ野川はこちら](#)（←クリック）

みんなで楽しめる野川であるために「野川ルール」を考えました。[野川ルールのページへ](#)（←クリック）

問合せ先

東京都建設局 北多摩南部建設事務所 工事第二課 工務係

住所 〒183-0006 東京都府中市緑町 1-27-1

電話 042-330-1845

FAX 042-369-3890

e-mail s0200212@section.metro.tokyo.jp